

## 2. 平成30年7月豪雨災害の現場から ～相乗型豪雨災害の研究最前線～

概要	<p>平成30年7月豪雨災害は、広範囲にわたる土砂災害や河川の氾濫が、同時多数的に発生し、西日本を中心に多くの犠牲者を出すとともに、交通や水道が寸断され各地で孤立や断水が起こるなど、地域社会に甚大な被害をもたらしました。</p> <p>防災・減災研究センターでは、この新しい災害の現象を『相乗型豪雨災害』と名付けて、そのメカニズムの解明を進めています。</p> <p>本講座は、研究者の目から見た被災地の状況と、最新の研究の状況をお伝えするものです。</p>	
会場	東広島キャンパス 情報メディア教育研究センター2階セミナー室	
時間	① 13:00～13:50 ② 14:00～14:50 ③ 15:00～15:50	
定員/対象	30名 / 自主防災組織のメンバー、一般市民の方など	
受講料	4,000円	
5/29 (水)	1回 ①	<p><b>『相乗型豪雨災害』の被害状況とメカニズムとは</b> <span style="float:right">総合科学研究科 教授 海堀 正博</span></p> <p>従来の防災・減災対策の弱点や限界が顕在化した『相乗型豪雨災害』。そのメカニズムを解明することが、今後の有効な対策に資すると考えています。研究者の目で、災害を引き起こした歴史的背景やメカニズム、避難行動のあり方などに迫ります。</p>
	2回 ②	<p><b>『相乗型豪雨災害』と河川の洪水、氾濫の関係とは</b> <span style="float:right">工学研究科 准教授 内田 龍彦</span></p> <p>これまででない豪雨が起きたその時、河川の洪水流はどのような状態にあったのか、また水害対策の課題とは何か、相乗型豪雨災害を軽減するにはどのような研究が必要かについて紹介します。</p>
	3回 ③	<p><b>豪雨災害時避難の課題と求められる減災行動</b> <span style="float:right">工学研究科 准教授 塚井 誠人</span></p> <p>西日本豪雨災害では、避難に関係する様々な課題が浮き彫りになりました。この時間では、当時の新聞報道や避難所の現況を踏まえて、避難に関する課題と、避難に関する減災行動について考えます。</p>
講座内容に関する問合せ	防災・減災研究センター (社会産学連携グループ)	電話：082-424-4312 メール：hrrc@hiroshima-u.ac.jp